

JP unexamined Utility Model

Publication NO. 04-94842

issued Aug. 18, 1992

by T. Fujiyama (Matsushita Electric
(11)実用新案山願公開番号 Industrial Co. Ltd.)

(19)日本国特許庁(JP)

(12) 公開実用新案公報(U)

実開平4-94842

(43)公開日 平成4年(1992)8月18日

(5)Int.Cl. ⁵	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
H 0 4 M	1/06	A	7341-5K	
	1/00	11	7117-5K	
	1/02	C	7341-5K	
	1/03	C	7341-5K	

審査請求 未請求 請求項の数1(全 2 頁)

(21)出願番号	実願平3-934	(71)出願人	000005821 松下電器産業株式会社 大阪府門真市大字門真1006番地
(22)出願日	平成3年(1991)1月17日	(72)考案者	藤山 輝己 大阪府門真市大字門真1006番地 松下電器 産業株式会社内
		(74)代理人	弁理士 小鍛冶 明 (外2名)

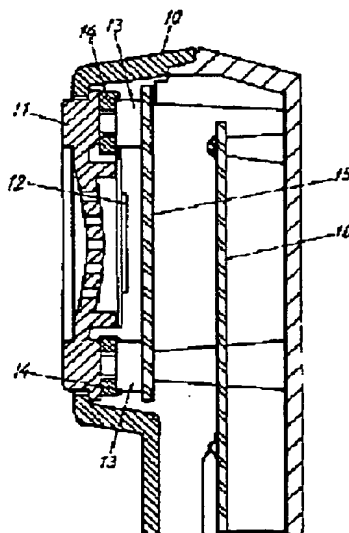
(54)【考案の名称】 コードレス通話機

(57)【要約】

【目的】 コードレス電話機や携帯電話機などのコードレス通話機において、フックスイッチの操作の簡便化を図り、操作性の向上を図ったものである。

【構成】 コードレス通話機の受話器部分の開口部に上下移動可能にイヤーパーット11を装着するとともに、このイヤーパーット11の移動にともないスイッチングするスイッチ13とこのスイッチングを検知する検知回路を設けることによって受話器を例えば耳に押しつけるのみで通話回線とつなぐことができるものである。

11 イヤーパーット 16 検知回路を有する
電子回路を
形成した
プリント基板
13 スイッチ



(2)

実開平4-94842

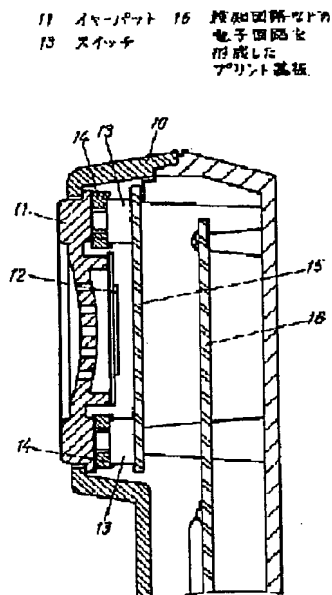
1

【実用新案登録請求の範囲】

【請求項1】コードレス通話機の受話器部分を、ケース開口部に上下移動可能に保持されたイヤークリップと、イヤークリップの移動によりスイッチングするスイッチとこのスイッチのスイッチングを検知する検知回路より構成されたコードレス通話機。

【図面の簡単な説明】

【図1】



2

【図1】本考案の一実施例であるコードレス通話機の要部である受話器部分の側断面図

【図2】従来のコードレス通話機の側断面図

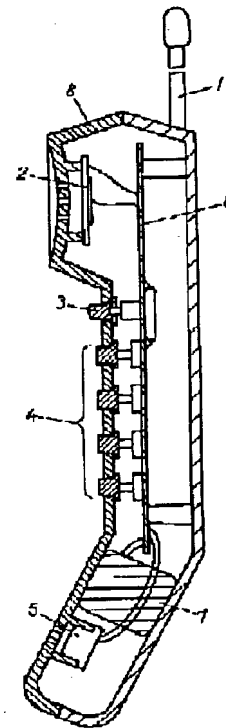
【符号の説明】

11 イヤークリップ

13 スイッチ

16 検知回路などの電子回路を形成したプリント基板

【図2】



【考案の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】

本考案はコードレス電話機や携帯電話機等のコードレス通話機に関するものである。

【0002】

【従来の技術】

通話機の代表である通常のコード付き電話機は、電話がかかってくると呼び出し音が鳴り、電話機の受話器を取り上げると自動的にフックスイッチが作動し通話回線につながり通話ができる。しかしながら、何か用事をしている場合は大変煩わしいものである。

【0003】

上記の解決策として、持ち運びのできるコードレス通話機、携帯電話機等のコードレス通話機が実用化されている。

【0004】

図2は従来のコードレス通話機であり、同図によると、アンテナ1、スピーカ2、通話スイッチ3、テンキー4、マイク5、電子回路を実装したプリント配線板6、バッテリー7、ケース8などにより構成されるものである。

【0005】

【考案が解決しようとする課題】

しかしながら上記のようなコードレス通話機は、電話がかかってきた時は、コードレス通話機を持ち上げて、もう一方の手で手動により通話スイッチ3を通話モードに切り替えなければ、回線につながらなかった。本考案はかかる点に鑑み、呼び出し音が鳴った場合、コードレス通話機を片手で持ち上げ耳に受話器を押さえつけるだけで通話回線につながる優れたコードレス通話機を提供することを目的とするものである。

【0006】

【課題を解決するための手段】

本考案のコードレス通話機は受話器部分のケース開口部に上下移動可能に保持

されたイヤーバットと、イヤーバットの移動によりスイッチングするスイッチと、このスイッチのスイッチングを検知する検知回路を付加したものである。

【0007】

【作用】

本考案は上記した構成により、電話の呼び出し音が鳴った場合、コードレス通話機を片手で持ち上げ耳に受話器を押さえつけるだけで通話回線を接続することができ、スイッチング操作を別途行う必要なく通話できるものである。

【0008】

【実施例】

以下本考案の一実施例のコードレス通話機を図1により説明する。

【0009】

同図によると、10は開口部を有するケース、11はその開口部に上下移動可能に保持されたイヤーバット、12はイヤーバットに固定されたスピーカ、13はイヤーバットの移動によりスイッチングするスイッチ、14はスピーカの共振防止用ダンパー、15はスイッチ13を保持するプリント基板、16はスイッチ13に接続され、このスイッチ13のスイッチングを検知する検知回路などの電子回路を形成したプリント基板である。

【0010】

上記のように構成されたコードレス通話機の動作について説明すると、電話がかかってきた場合、コードレス通話機を片手で持ち上げ耳に受話器を押さえつけることにより、イヤーバット11が押し込まれ、スイッチ13をスイッチングする。これをマイコンやゲームアレイを含む検知回路により検知して通話回線を接続することができるものである。

【0011】

なお、スイッチ13は節度付きでも節度なしでも使用できる。

また、上記スイッチ13は単なるプッシュスイッチでも良いが、既知のプッシュオン、プッシュオフスイッチまたは電子回路内にスイッチ13の最初のプッシュでオン状態を保持し、次のプッシュでオフ状態にする既知の回路を内蔵すれば、より利便性の向上が図れるものである。

【0012】

【考案の効果】

以上のように本考案によれば、コードレス通話機の受話器部分のケース開口部に上下移動可能に保持されたイヤークリップと、イヤークリップの移動によりスイッチングするスイッチとこのスイッチングを検知する検知回路により構成したので、電話がかかってきた場合、コードレス通話機を片手で持ち上げ、耳に受話器を押さえつけるだけで通話回線を接続できる操作の簡単なコードレス通話機を提供することができ実用的価値の大なるものである。

THIS PAGE BLANK (USPTO)